

趣旨等

- 2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、全国の特別支援学校で、スポーツのみならず文化・教育活動も含めた、全国的な祭典を開催

- ・「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動を共有する機会 ・障害の有無等を超えて誰もが心を触れ合う機会
- ・地域住民の主体的な参画

- 特別支援教育(special needs education)を**変革**
 - みんなをつなげる次世代の「共生学校」を創造**
- 既存の特別支援学校を拓く！

- ・地域の誰にでも開かれた**次世代の「共生学校」に変革**
- ・東京大会のレガシーとして、障害の有無や年齢・性別を超えた、**地域の共生社会の拠点化**
- ・**自助、共助、公助を一体として推進**

具体的な取組

特別支援学校を拠点とした総合型地域スポーツクラブの創設等、「**地域社会のハブ(交流拠点)**」化

企業が特定の特別支援学校と連携し応援

特別支援学校の児童生徒からの公募によりロゴマークを選定

幅広い地域住民が参加する**地域共同運動会・文化祭等**の開催

オリンピック・パラリンピアン等アスリートによる**スポーツ体験会等**の開催

プロスポーツの試合やプロ芸術家のコンサートの開催等、**障害児が「ほんもの」のスポーツ・文化に触れる機会**の創設

特別支援学校と近隣の小中高等学校の児童生徒の**交流及び共同学習の促進**／その成果の発表大会

障害者と健常者が共同で制作を行う文化芸術活動の促進／制作した作品の**展示・販売**

卒業後も障害者が特別支援学校や地域社会から様々な支援を受けられる機会を充実

「Special プロジェクト 2020」 文部科学省推進本部

趣旨

2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、文部科学省オリンピック・パラリンピックレガシー事業として、全国の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育の全国的な祭典を開催するため、『「Special プロジェクト 2020」文部科学省推進本部』を設置する(平成28年6月7日に設置)。

検討事項

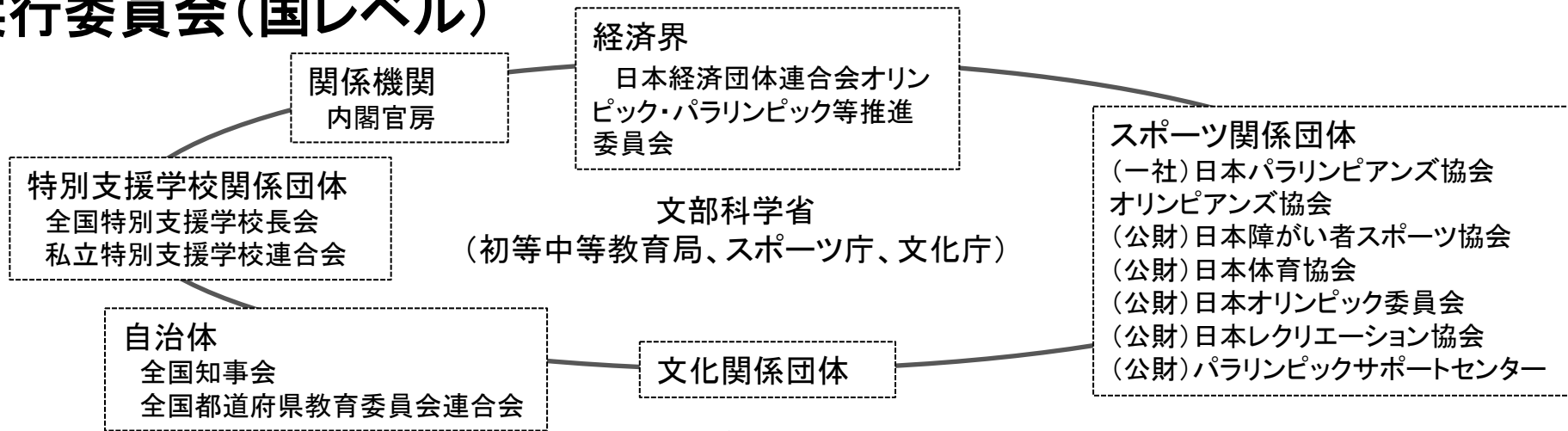
- (1)「Special プロジェクト 2020」の具体的な構想の検討に関すること
- (2)「Special プロジェクト 2020」の開催準備に関すること
- (3)その他必要な事項

構成員

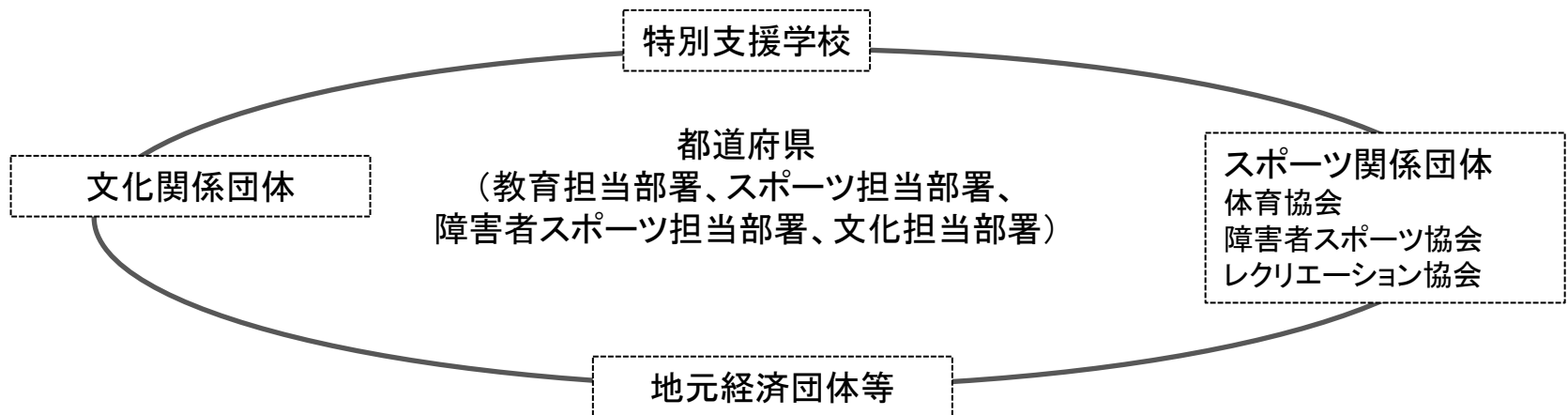
- | | |
|---------|------------------------------------|
| (本部長) | 松野文部科学大臣 |
| (本部長代理) | 義家文部科学副大臣 |
| (副本部長) | 小松文部科学審議官 |
| (本部長補佐) | 佐野大臣官房長 |
| (本部員) | 藤原初等中等教育局長
高橋スポーツ庁次長
中岡文化庁次長 |

Special プロジェクト 2020 実施体制

実行委員会(国レベル)



実行委員会(都道府県レベル)



文部科学省ボッチャイベント

～ Special プロジェクト 2020 プレイベント ～

趣旨等

平成28年8月2日には、特別支援学校のチームが競い合う初めてのスポーツの全国大会である「ボッチャ甲子園」が開催されたところであり、2020年に向けてこのような取組をさらに発展させることが必要である。このため、「Special プロジェクト 2020」の一環として、文部科学省においてボッチャの普及啓発を推進するためのイベントを開催した（松野文科大臣、丸川オリパラ担当大臣、パラリンピアンや特別支援学校選手が参加したチーム形式による試合等のイベントを実施）。

日時

平成28年9月21日(水)
13:00 ～ 15:30

出席者

文部科学省 松野大臣、義家副大臣、樋口政務官他
内閣官房 丸川オリパラ担当大臣、萩生田内閣官房副長官
馳前文部科学大臣
パラリンピアン 廣瀬選手、杉村選手
日本パラリンピアンズ協会 大日方副会長、根木副会長
全国特別支援学校長会 田村副会長、市川事務局次長
特別支援学校選手(12校、計32名)

場所

霞が関コモンゲート中央広場



イベント風景

Special プロジェクト 2020

～障害の有無にかかわらず、すべての人が笑顔になる祭典～

(新規)

29年度予定額：75,527千円

趣旨等

●2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、**全国の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育活動の全国的な祭典を開催**

- ・「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動を共有する機会
- ・障害の有無等を超えて誰もが心を触れ合う機会
- ・地域住民の主体的な参画

事業内容

①祭典の企画立案等

国レベルの中央実行委員会を開催し、事業内容を具体化するとともに、関係機関とのネットワークを構築し、ロゴマーク作成やプロモーション等を行う。

②各地での祭典開催のための体制整備及び情報収集

各都道府県・地域において地域実行委員会を開催し、域内の関係機関のネットワークを構築するとともに、特別支援学校で行われる運動会、文化祭に関する情報収集を行う。

③祭典に向けたモデル事業の実施

全国的な祭典の開催に向けた具体的な取組の先進事例を蓄積するため、モデル事業を実施する。

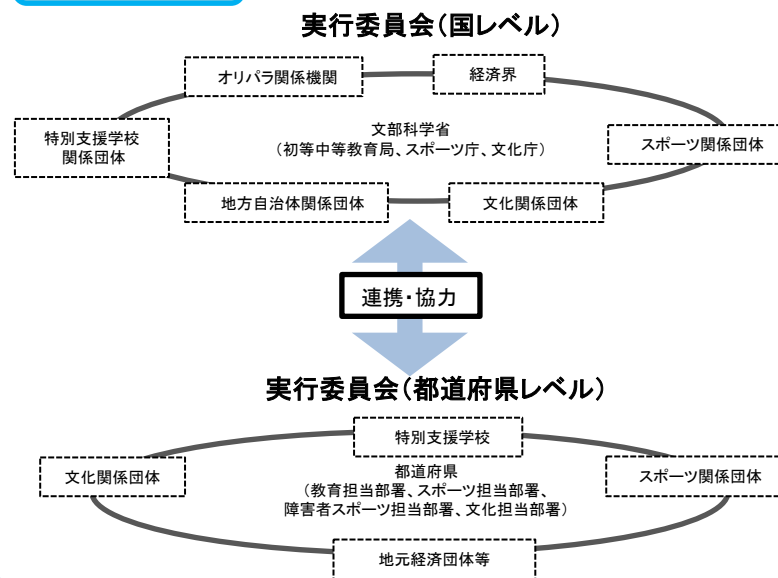
④特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業の実施

特別支援学校等における体育・運動部活動等を充実するとともに、特別支援学校等を拠点とした障害者の地域スポーツクラブの設立を支援する。

⑤特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会の開催支援

全国の特別支援学校のスポーツ・文化活動の充実を図るため、特別支援学校のスポーツ・文化活動の成果を披露するための全国大会の開催を支援する。

実施体制



効果

- ・地域の誰にでも開かれた**次世代の「共生学校」**を創造
- ・東京大会のレガシーとして、障害の有無や年齢・性別を超えた、**地域の共生社会の拠点づくり**